

聴力検査



聴力とは、音を聞き取る能力のことをいいます。音は空気の振動で発生し、振動の速さ（回数/1秒間）をHzで表します。

健康診断では選別聴力検査を行います。

低い音（1000Hz）を30dB（雇入れ健診：30dB）

高い音（4000Hz）を40dB（雇入れ健診：30dB）

の音量（音圧ともいう）を片方ずつ聞いていただき、耳の聞こえを調べます。

聴力が低下すると、難聴になることがあります。難聴は障害の発生するところにより、3つに大別することができます。

①伝音性 ②感音性 ③混合性（①と②を併せ持っている）

原因として伝音性では中耳炎など、感音性では騒音性難聴、突発性難聴、メニエール病、薬剤性難聴などがあります。



聴力は特に病気や怪我がなくとも加齢とともに低下の傾向があります。この加齢による聴力低下は誰にでも起こりうる症状で、老人性（加齢性）難聴といわれています。

精密聴力検査

騒音現場で作業をされる方を対象に、精密聴力検査という検査があります。複数周波数にてどれくらいの音量で聞こえるかを左右それぞれの耳で検査します。検査する周波数は250 Hz 500 Hz 1000 Hz 2000 Hz 4000 Hz 6000Hz 8000 Hzです。

防音対策をとらずに大きな音に長時間さらされていると（騒音暴露という）音が聞こえにくくなる症状が現れることがあります。これを“騒音性難聴”といいます。

騒音性難聴の起こり方は、騒音現場で発生する音の音量や周波数、衝撃性と騒音暴露の時間によってかわってきます。いずれの場合も4000Hzを主とした高音域の聴力低下が最初に現れてきます。早期の聴力低下については自覚症状がほとんどありません。

しかし、騒音暴露が長時間続くと4000Hzでの聴力低下だけではなく、2000Hz、1000Hzにおける聴力にも影響が及び、しだいに日常生活にも支障がでてくるようになります。

さらに、騒音暴露による影響は聴力だけでなく、精神的、身体的にも影響が及んでくる場合があります。